

研究・調査報告書

報告書番号	担当
242	滋賀医科大学社会医学講座福祉保健医学部門
題名 (原題/訳)	
Alcohol consumption, bone density, and hip fracture among older adults: the cardiovascular health study. 高齢者におけるアルコール消費、骨密度、大腿骨骨折：“the cardiovascular health study”	
執筆者	
Mukamal KJ, Robbins JA, Cauley JA, Kern LM, Siscovick DS.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Osteoporos Int. 2007 May;18(5):593-602.	
キーワード	
アルコール、骨密度、疫学、大腿骨骨折、栄養	
要 旨	
<p>目的： アルコール摂取と大腿骨骨折の危険性との関連については一定の結論が得られていない。両者（アルコール摂取と大腿骨骨折）の媒介因子としての骨密度および転倒のリスクの重要性も明らかにされていない。</p> <p>方法： “The cardiovascular health study（米国の四地域における65歳以上を対象にしたコホート研究）”の一環として、5865人の参加者からビール、ワイン、リカーのひとり年間あたりの消費状況を調査した。病院の退院時診断を用い悪性新生物と車両事故以外の原因による大腿骨骨折症例を同定した。二つの地域における1567人の参加者（5865人中のサブ・グループ）に関してはDXAスキャンを試行し骨密度を測定した。</p> <p>結果： 平均12年間の追跡調査期間に大腿骨骨折例が412あった。アルコール摂取量と大腿骨骨折の危険性とは有意なU字型の関係が見られた（二次項p値0.02）。長期非摂取者と比較して大腿骨骨折のハザード比は週あたり14ドリンク（1ドリンク＝アルコール換算12～13g）未満の飲酒をする人で0.78（95%信頼区間CI：0.61-1.00）、週に14ドリンク以上の飲酒者で1.18（95%CI：0.77-1.81）であった。アルコール摂取とtotal hipおよび大腿骨頸部の骨密度とは段階的な容量反応関係が見られた。飲酒をまったくしない群に比べて、週に14ドリンク以上の飲酒者群でおよそ5%（95%CI：1%-9%）骨密度が高かった。この関係は男性、女性ともに同様であった。</p> <p>結論： 高齢者においては、中等度のアルコール摂取と大腿骨骨折の危険性との関係はU字型であった。しかしアルコール摂取と大腿骨の骨密度との間には正の相関が認められた。</p>	